

日本パペットセラピー学会（JPTA）からのお知らせ

*主な記事：日本パペットセラピー学会第17回大会ご報告、ダニエラさん再来日講演ご報告等
ニューズレター 2023 No. 2

2023年12月1日 JPTA事務局 〒981-1295 宮城県名取市ゆりが丘4-10-1 尚絅学院大学 東研究室内
メールアドレス info@j-pta.net



第17回大会は東京にて対面で開催することができ、前夜祭、大会当日ともに熱気溢れるなか終了することができました。ダニエラさんが8月に再来日され、4会場でご講演された様子も合わせて、ご覧いただきたいと思います。（編集長：中下富子）

日本パペットセラピー学会 第17回大会を終えて

大会長 岡 信行（オカ ノブユキ）

新型コロナウイルス感染症により、数年間ズームによるオンラインでの開催を余儀なくされてきた大会が、この度4年ぶりに国立音楽院を会場として、対面で開催することができました。

「パペットセラピーと教育～心をつなぐパペットたち～」というテーマのもと、教育というジャンルに注目したプログラムをご用意いたしました。

洗足こども短期大学・和洋女子大学非常勤講師の和気瑞江様による「わたしの歩んできた道～人形劇に出会って～」と題した教育講演は、お話だけでなく実際に人形劇を上演してくださったことで、パペットの動かし方など、多くのことを学ぶことができました。

午後は、会場となった国立音楽院のパペットセラピー講座に参加している受講生によるソックスパペットシアター「どんぐりひろばは大きすぎ」を上演。子どもたちが一生懸命演ずる姿が、多くの方々に感動を与えました。

また、牛乳パックなどを使ったパペット作りの紹介では、身近な素材を使い、作成方法を丁寧に説明したことで、現場に帰ってすぐに使えそうという声が聞かれました。

そして、シンポジウムでは「子どもたちの心に寄り添うパペットたち」と題し、様々な教育現場でパペットを活用されている方々をシンポジストとしてお招きいたしました。



私も「Amazing Puppets」と題し大会長講演でお話させていただきましたが、パペットが現場で活かされている様子や、パペットを通して子どもたちの良さや力を引き出している実践が紹介され、これからの活動の参考になったという多くの声が届いています。

大会を推進してくださった準備委員の皆様や、発表者の皆様。そして会場を提供してくださった国立音楽院の皆様に、心より御礼を申し上げます。

第 17 回大会を終えて

副大会長 高村 豊 (タカムラ ユタカ)

今大会から運営を理事がグループに分かれて準備委員会を結成して推進することになりました。何度もメールでやり取りしながらも3年間 ZOOM での大会だったので対面での大会は戸惑うことも多々ありました。準備委員以外の理事の協力もあり、トラブルも何とか解消して開催することができました。

私は、総合司会とワークショップを担当しました。個人テーブルもない会場で制作作業が困難な状況に参加者から不平も聞くことなく、ご理解いただいて、複数の紙製パクパク人形を紹介しました。作り方、紙の折り方は今後 HP 等で紹介していこうと考えています。予想以上に多くの方々にご参加いただきありがとうございました。



大会準備委員 森平 直子 (モリダイラ ナオコ)

3回続けてオンライン開催となっていましたが、今大会は、対面開催+動画のオンデマンド配信という形で行いました。わざわざ会場に足を運ぶ方はあまり多くないかもしれないという懸念もありましたが、実際には50名を超える方が会場に足を運んで下さり、しかもそのうち非会員の方が30名もいらしたのは、大変嬉しいことでした。

パペットが教育現場でどのように活躍しているかが、実演も交えて良く伝わったのではないかと思います。前夜祭では図らずもハロウィーンで交通規制のされた渋谷の街に繰り出すことになってしまいましたが、皆様のお力添えによって、無事に2日間のプログラムを終えることができたことを感謝申し上げます。

大会準備委員 東海林 照子 (トウカイリン テルコ)

前夜祭では、進行司会を務めさせていただきました。たくさんの方のご参加ありがとうございました。パペットを片手に、自己紹介される方、パフォーマンスタイム、おしゃべりなど本当に楽しかったです。みなさまの笑い声と笑顔でいっぱいでした。学会大会の時とは、また違うみなさまの一面に出会えた喜びあふれる前夜祭になりましたことお礼申し上げます。

29日(日)に行われた教育をテーマにした大会は、教育者の方にとって、学びの多い大会だったと思います。数々の実践、子どもたちの姿が目には浮かぶようでした。先生方の情熱に感動しました。最後になりましたが、第17回大会、対面で行えたことが何よりの喜びです。手作りパペットを片手に写真を撮らせていただいた時には、感動が込み上げてきました。



第 17 回大会に参加して

会員 小林 美佐子 (コバヤシ ミサコ)

岡先生の段ボールの中から登場するパペットに魅せられながら、人と関わる力や自己表現への意欲に繋がることを改めて実感し、和気先生の親も子も自分も楽しい時間を共有する事の大切さを教えてもらったという貴重な言葉と一人で演じる人形劇に感動しました。

また、それぞれの教育の実践活動において、パペットが介在することにより子ども達の好ましい反応や心を癒す効果があり、さらにセルフセラピーとしての役割がある事も伝わってきました。

今後、教育・医療・福祉等様々な分野において、術者が愛着をもったパペットでパペットセラピーとして益々活動が広がることを期待しました。教育や福祉、心理を志す学生が、大学の講義で学ぶ事も必要ではないかと感じました。



Daniela Hadasy (ダニエラ ハダシイ) さん来日に寄せて

東京・群馬・仙台・神奈川会場：案内

日本パペットセラピー学会名誉理事長 原美智子 (ハラ ミチコ)

本学会名誉会員のダニエラさんがイスラエルから2023年8月に再来日され、5日から11日までの1週間の間に計4回のパペットセラピー講演会を行いました。この間、案内役を仰せつかり緊張しておりましたが、台風の襲来も大雨も地震もなく、交通機関のトラブルもなく不思議なくらいに順調に予定通りにすべての会を開催できました。会を担当された岡信行理事(5日東京)、中下富子副理事長(7日高崎)、森平直子理事(9日相模原)、東義也理事長・千葉俊一理事(11日仙台)、通訳の根岸衣美子理事、東千春様はじめご関係の皆様



厚く御礼申し上げます。お疲れさまでした。

講演タイトルは「パペットセラピスト(腹話術師)ダニエラ・ハダシイ氏講演会 ウクライナなどの危機的状況下にある子どもへのパペットを使った心理的支援」で、イスラエル大使館の後援をいただき、また仙台講演では臨床心理士のキネレット・コーエン大使夫人からのビデオメッセージをいただきました。

また森平教授は2012年にダニエラさんが東日本大震災の被災地支援で行ったものと同じ方法でパペットを作るワークショップを行いダニエラさんに見ていただきました。各会場にはたくさんのご参加をいただき盛んな交流ができました。

1週間の講演旅行を終え無事帰国され早速お礼のメールが入りました。今回ダニエラさんの助手として同伴しピアノ伴奏をされた息子のNave(ナベ)さん(21歳)を皆様が暖かく迎えてくださったことを感謝しておられました。彼は2年間の兵役を終えたばかりで久しぶりに親子で日本での幸せな時間を過ごされました。母親思い

の優しい男の子で、私もすっかり情が移ってしまい別れるのが辛くなりました。

たくさんの記念写真やビデオで懐かしくダニエラ親子との交流を思い出しておりましたところ10月7日突然ハマスによるイスラエル攻撃のニュースが飛び込んできました。すぐに安否確認とお見舞いのメールをしたところ、自分は無事だがナベが夜の内に徴兵され陸軍に配属されたとのショッキングな返信がありました。若者たちはきっと危険な戦場に送られることなのでしょう。無事に帰還できたとしてもPTSD(心的外傷後ストレス障害)になっていることなのでしょう。写真は、高崎の群馬パース大学の講演の後で中下教授の運転で高崎の観音山に観光に連れて行っていただいた時の親子の写真です。巨大な観音像に驚いていました。

今は観音様に平安を祈りたい気持ちです。

東京・群馬・神奈川会場：通訳 理事 根岸 衣美子(ネギシ エミコ)

ダニエラさんと息子さんのナベさんを日本パペットセラピー学会にお招きするにあたり、原名誉理事長と共にゲストを案内同行するという大役をいただきました。ダニエラさんと原先生が第1回大会で出会ってからずっと長い間、交流を深めてこられたからこそ実現できた来日でした。

改めて、ダニエラさんのホームページのビデオを何度も何度も見ました。そして彼女の優しい愛情あふれるお人柄を知り、心から来日を楽しみにしておりました。講演会の事前の打ち合わせでは、『ドラマセラピー』の実践のお話しや写真などを拝見し、また病気の多くの子もたちに勇気を与えたであろう実物のパペットに出会えたことは感慨深いものでした。今回いろいろな学びをいただけたことに感謝いたします。

今はただただナベさんがご無事であること、イスラエルの戦火が一日も早く落ち着くことを祈るばかりです。

パペットセラピーがどういうものなのか、ダニエラさんがどのような活動をされているのかも知らず、自信がないままお引き受けした通訳でしたが、東京での講演をお聴きし、資料を読み、学会 HP からブログを拝見し、仙台の講演を再びお聴きして、ダニエラさんの活動、その活動に至った道のり、パペットと共に戦争や病気そして事故のためにトラウマに苦しむ子ども達のために心を尽くすその姿に深く感動しました。

翌日、現在は震災遺構となっている被災した荒浜小学校にお連れしました。そこで来構者のために繰り返し上映されている映像の中に、当時の体験を話す川村先生を発見した時には興奮された様子で、12年前に同行した友人に伝えたいと映像に映る先生の姿を携帯で何枚も写していました。

帰り際にその川村先生ご本人と奇跡のような再会を果たした時のなんとも嬉しそうな表情にこちらまで胸が熱くなりました。



2024 年度 日本パペットセラピー学会 第 18 回大会のご案内



最近、日々の臨床や日常生活の中で感じてきた、感じつつある状況を「これは問題だよね!」、
「これは危機感を感じるよ!」等、日本の危なさの不安さえ感じ始めております。
そのようなこころの叫びを重要に捉え、大会長をお引き受けいたしました。

大会長：近喰 ふじ子（コンジキ フジコ） 大会準備委員：東 義也、千葉俊一、安藤倫子、根岸衣美子
開催日：2024 年 10 月 27 日（日） ※ 会場の関係で変更もあり得ますが、ご了承ください。
会 場：未定（東京周辺）
内 容：招待講演、教育講演、シンポジウム、一般演題等



事務局だより



皆様いかがお過ごしですか。新型コロナウイルス感染症が 5 類に移行しまして、4 年ぶりに対面による第 17 回大会が国立音楽院（東京）で 10 月 29 日に開催されました。再会を喜び、また、非会員の参加者の多かったことにも喜ぶ時となりました。現在、会員数 80 名です。さらに皆さまのご紹介ご推薦によって会員が増え、パペットセラピーの学びの輪が広がっていくことを願っております。

（写真は井澤道夫先生・HP エディパペットから転載）

さて、顧問として当学会に関わってくださっていた井澤道夫（澤屋逸太郎）先生が去る 4 月 27 日に永眠されました。腹話術師であり、また、腹話術人形師でもあった井澤先生、学会に多大な貢献をされました。ここに哀悼の意を表します。

現在、学会では、ホームページを外国の人たちも読めるように英語翻訳を進めています。海外会員も数名おられますし、学会としても海外発信を願ってきたからです。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。